進学通信
ステップゼミナールだより
ホップ・ステップ
第120号
2016年10月1日発行

★高校入試まで157日 センター試験まで106日★

いよいよ10月、1年の半分が終わって後半に入ります。中3生は学力Aテストが終わり今月は12日に学力Bがあり、23日に道コンがあります。

いつも言っている様に1回ごとの点数が良いか悪いかを気にすることはありません。学力A・B・Cが終わった後に本格的に始まる入試勉強に向けて、各教科ごとの弱点を把握し、克服する努力が大切です。

みんなのテストの結果を見ると、とにかくミスの多さに驚きます。ほとんどの人が各教科に3～5点の単純なミスがあります。普段の勉強での丁寧さ、慎重さが足りないからでしょう。

5点×5教科だと25点になります。入試で考えると20点で学校のランクが上がります。

就職難で格差社会、高校入試のために勉強して、高校に合格しても3年後は何も保証されていません。入試のとき湖陵や江南は釧路の高校としてはブランドかもしれません（受験生個人には）。

しかし、はっきり言うと湖陵や江南でさえ3年後は何のブランド力もありません。大学に進学するにしても社会に出るために資格をとるにしても結局、もっと大変な勉強しなければなりません。

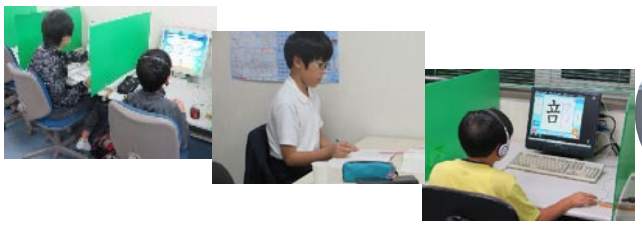
学校としてブランド力があるのは高専だけです。それが求人倍率20倍、就職率100％です。

「遠くて、長くて、勉強が大変」これが高専を避ける理由です。大変なのは目標も目的もなく何となく普通高校に進学する人たちです。

25歳になったとき確実に格差を感じるはずです。中3から10年後、もう目の前です。

高校2年生はもっとしっかりやりましょう。

9/9　Aテスト対策授業　　9/10.11 定期テスト対策の１０００分特講のようす



古川一心君と逢来君と附属の大陸君。卒業生の子供、菅原悠君

高校生　武修館一貫の成瀬さんと北陽の伊藤さん

湖陵の佐藤さんと江南の富岡さん、もう直ぐ修学旅行

もう直ぐ入試の江南３年生の田村さん。学校の講習の後も！

湖陵１年の牛木さんと江南３年の大坪さん。

大坪さんがセンター試験の願書を見せくれました。

湖陵の佐藤さんの土産と看護師の佐藤さんの差し入れ

小林君がみんなにジュースを買ってくれました。ラッキー！

21期生で旭川教育大学の阿部さんと北星女子短大の木村さんと釧路短大の田中さん、久ぶり！

18期生で高専卒、日立製作所の富樫君。夏休みで。

18期生でいつもパワフルな市立病院の看護師、佐藤さん。

17期生で性格のいい小林君、お金もないのにジュースを！

6期生で超パワフルな野澤君。インディアンカレー

6期生で小3の悠君を迎えに来た菅原君、もう３５歳です。

北海道高等学校文化連盟　第40回全道高等学校写真展

高文連の写真部門で河村亜依璃さんの写真『粋な背中』が釧路地区で金賞6作品うちの1枚に選ばれました。

これらの作品は、10月19日から帯広で行われる全道大会で、他の全道の優秀な作品と競うことになっています。いい成績が収められるといいですね。

ステップゼミナールには卒業生を中心に30人ほどが参加しネット上に写真を投稿し共有している『スナップゼミナール』というのがあります。

高校生から社会人、地元の人から、根室、札幌、東京、群馬、神奈川などいろんな所で撮った写真が寄せられています。

スマホからデジカメ、一眼レフで撮った色々な写真が載っています。

カメラを通して見ると新しい発見があったり、思い出に残る貴重な一枚になる可能性のある写真が撮れたりします。デジタルですから撮った後はお金がかかりません。皆さんもどんどんスナップ写真を！

10月の予定

1	土	
2	日	
3	月	
4	火	●鳥取中定期テスト●
5	水	●桜が丘中定期テスト●
6	木	
7	金	■中3 学力Bテスト対策授業
8	土	休塾
9	日	休塾
10	月	●体育の日 休塾
11	火	■中3 学力Bテスト対策授業
12	水	■中3 学力Bテスト
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	休塾
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	■中3土曜特講①（計算特講）
23	日	■中3 道コン■
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	■中3土曜特講②（等式変形&角度特講）
30	日	休塾
31	月	

在籍する生徒の所属校
小学校　愛国・鳥取西・朝陽・附属・富原
中学校　美原・共栄・景雲・鳥取・鳥取西・阿寒・桜が丘・附属・北・富原
高　校　湖陵・江南・北陽・武修館

発行：ステップゼミナール　088-0617　釧路町北都２－２－１　（TEL）0154-36-4170　HP：http://www.stepsemi.com　Mail：spirits@stepsemi.com

『なぜ学校や塾に行くのだろう…』後藤卓也

突然ですが、皆さんは勉強が好きですか？

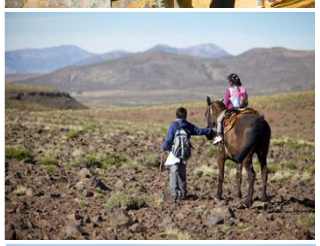
受験勉強は楽しいですか？

他の友だちは学校が終わると遊びに行くし、夏休みの間もプールに行ったり、思う存分テレビを観たりゲームをしたりしているのに、どうして僕は塾に行かなければならないんだろう？

どうして私は観たいテレビも我慢して、勉強しなければならないんだろう？

なぜこんなに辛い思いをして、中学受験なんかしなければならないんだろう？　そう思ったことはありませんか？

「世界の果て」を登下校する４人の少年少女



夏休みが始まる前、私は映画館で１本の映画を観ました。

映画の題名は「世界の果ての通学路　On The Way To School」。２０１３年に公開された、７０分ほどの短いドキュメンタリー映画です。

登場するのは１１～１３歳、つまりちょうど君たちと同じくらいの年齢の４人の子どもたち。その４人の子どもたちが、家を出て学校に着くまでの様子を撮影した作品です。

ケニアのジャクソン少年は、毎日野生動物の住むサバンナを２時間かけて学校に向かいます。途中には象の群れがいて、毎年何人もの子どもが象に襲われ、命を落とします。そんな危険な草原を、７歳の妹を連れて通学するのです。

アルゼンチンのカルロス少年は、アンデス山脈のへき地で羊飼いの手伝いをしています。彼は６歳の妹を連れ、片道１８キロの道のりを馬で駆けて学校に通います。

モロッコの少女ザヒラさんは、毎週月曜の朝４時に家を出て、３０００メートル級の山道を、４時間かけて寄宿制の学校まで歩いて通い、金曜の夕方にはまた２２キロの山道を歩いて家まで帰ってきます。

インドのサミュエル少年の通学路は「たったの」４キロですが、通学には毎日１時間半かかります。足が不自由なため、彼の乗ったオンボロの車椅子を幼い２人の弟が一生懸命に押して、通っているからです。

「夢をかなえたい」思いが、彼らを学校へ向かわせる

なぜ、そんなにまでして彼らは学校に通うのでしょうか。

それは「夢をかなえたい」からです。学校で学ぶことが、貧しい村に生まれ育った子どもたちにとって「パイロットになりたい」「学校の先生になりたい」「自分のように身体の不自由な子どもを治す医者になりたい」――。そんな夢をかなえるための唯一の手段だからなのです。

学校に行けば、子どもらしい暮らしができる

でも、それだけではありません。

彼らは毎日、水をくんだり、羊の世話をしたり、洗濯をしたりしています。大人と同じように、生きるために働いています。友だちと遊んだり、テレビを観たりする暇はありません。でも学校に行けば、大勢の仲間がいる。一緒に勉強したり、運動したり、おしゃべりしたりすることができる。

映画のなかで感動したのは、ようやく象のいるサバンナを抜けて学校が見えてきたときのジャクソンくんの笑顔。険しい通学路の途中で、同じ学校に向かう友だちに出会ったときの、カルロスくんやザヒラさんの笑顔。そして校門をくぐるやいなや、同級生たちがサミュエルくんの車椅子を弟たちから奪い取るようにして、みんなで担いで教室に連れて行く光景でした。

でもこれらは決して「世界の果て」ならではの出来事ではありません。日本でもつい数十年前までは、学校に行けば普段の生活の苦労を忘れて、学びと遊びに専念することができる、学校に行けばちゃんと給食を食べることができる――つまり、学校こそが子どもが子どもらしく過ごすことを保証してくれる場所だったのです。

塾の勉強が辛くても…長い道のりの果てに「君たちの未来」

それに比べて君たちは、学校まで歩いて通える。ちょっと遠くてもバスや電車がある。塾の帰りが遅くなれば車で迎えに来てもらえる。お弁当も作ってもらえる。テレビだってマンガだってゲームだってスマホだってある。世界の果てで懸命に学校への道を歩む彼らに比べて、どれだけ君たちは恵まれた環境にいるのでしょうか。

でも私は、ケニアやモロッコの子どもたちが「立派」で、君たちが甘やかされたダメな子どもたちだなどと決めつけるつもりはありません。

君たちは自分の意思で塾に通い、中学受験をしようとしています。受験なんかしなくてもいいのに。わざわざ電車に乗って遠くの塾まで通わなくても、家の近くにいくらでも塾はあるのに。それなのに君たちは毎日塾に通い、受験勉強を続けています。それはなぜですか？

塾に行けば、いろんなことが学べるから。

大好きな先生がいるから。

励まし合える友だちがいるから。

そして、自分の目標である第１志望校に合格したいから。

生まれ育った環境は異なっていても、学校や塾に通い続ける子どもたちの笑顔にかわりはありません。その笑顔の裏には、遊びたい気持ち、怠けたい気持ち、どれだけ頑張っても成績が伸びないという悩み、どうせ無理だよと諦めそうになる弱い心があるかもしれません。でも、そうした弱い心と戦いながら、君たちは勉強を続けているのです。

どんなに勉強が辛くても、どんなに疲れていても、君たちは笑顔で「こんにちは！」と元気に通ってきてくれる。その笑顔が、私にはケニアやアルゼンチンやモロッコやインドの子どもたちの笑顔と重なってみえるのです。

ここから受験までの道のりは、ひょっとしたら象のたむろするサバンナや３０００メートルの山々よりも険しい道のりかもしれません。でもその長い道のりを諦めずに歩き通したときに、きっとそこには君たちの新しい居場所があり、君たちの未来があるはずです。

支えてくれる家族がいる…世界の果ての仲間と一緒

もうひとつ。世界の果ての子どもたちと君たちに共通していることがあります。

彼らの家はみな貧しく、学校に通えない子どももたくさんいる村のなかで、それぞれに日々の生活に苦労しながら、彼らを学校に送り出してくれる両親がいます。

「子どもたちが象に襲われず、無事に学校に着きますように」と祈り、「勉強して賢くなって、自分の人生を切り開くんだよ」と応援してくれる家族がいます。

君たちのご両親は、毎晩「勉強しなさい！」と小言をいい、クラスが下がると「何やってるの！」と叱ることもあるでしょう。でも君たちがこれまで塾に通うことができたのも、自分の志望校に向かって、自分の夢に向かって歩き続けることができるのも、それを応援してくれる家族がいるからです。

だから、辛いことがあっても、絶対に自分の目標に向かって歩き続けましょう。いや、辛いことがあるからこそ、たどり着いたときに得られるものが大きいのです。

でも、本当に勉強を投げ出したくなるようなことがあったら、この映画を観に行ってほしいと思います。きっとたくさんの勇気をもらえるはずですよ。

2014 年 09 月 09 日　YOMIURIONLINE より

後藤卓也　啓明舎塾長。1959 年愛知県生まれ。東京大学教育学部博士課程修了。
主な著書に『大人のための「超」計算トレーニング』『大人のための「超」計算 正しく速くカッコよく解く』『小学生が解けて大人が解けない算数』『大人もハマる算数 』『秘伝の算数』『新しい教養のための理科』など。

人種差別もなく、毎日、お風呂に入ったり、シャワーを浴びることが当たり前だと思い、水道の水が飲めるのも一日３食べられることも、日常の生活のほとんどが普通で当たり前だと思ってる日本の小・中・高生。

年間に６００万トン以上の食品を廃棄する。これら全ては当たり前ではなく世界で最も恵まれた、そして最もそれを理解していない国が日本です。

世界中に大変な暮らしをしている子供たちが大勢います。日本でも６人に一人が貧困です。学校へ行くこと勉強することが幸せなことを知ること。